

行政視察報告書

令和7年 10月 30日

長浜市議会議長 伊藤 喜久雄 様

長浜市議会議員 加納 義之

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

1. 観察等名 令和7年度健康福祉常任委員会行政視察研修

2. 観察期間 令和7年10月22日（水）～10月23日（木）

3. 観察場所及び目的

①大阪府泉大津市

健康増進施策あしゆびプロジェクト、マタニティ応援プロジェクト

②大阪府豊中市

緑と食品のリサイクルプラザ

③大阪府豊中市

療育（0歳～就学前）

4. 調査内容感想等

・観察の目的

① 大阪府泉大津市：健康増進施策あしゆびプロジェクトについて

泉大津市のユニークなあしゆびプロジェクトの取り組みは、足元から健康を見直すという新しい視点で生活の質（QOL）向上に貢献している健康増進施策である。このプロジェクトの目的と背景や主な取り組み内容について説明を受け、また目指す未来についての視察をした。また全国初の取り組みである「マタニティ応援プロジェクト」は泉大津市の「健康づくり推進条例」に基づき、食育と地域連携を通じて持続可能な健康支援を実現するモデルケースとして注目されている取り組みについて視察をした。

- ② 豊中市緑と食品のリサイクルプラザは、食品残さと剪定枝を活用して堆肥「とよっぴー」を製造する資源循環型施設である。地域の環境意識向上と資源循環の実践両立させる好例であるために視察した。
- ③ 豊中市は、子ども一人ひとりの発達段階や特性に応じたきめ細やかな支援を行っておられ保護者の不安や負担を軽減する体制が整えられている。豊中市立児童発達支援センターは、子どもと保護者の両方に寄り添った支援を提供し、地域における重要な療育拠点であるのでその先進的な取り組みを視察した。

・視察内容

① 泉大津市の「あしゆびプロジェクト」は、足の指を鍛えることで市民の健康寿命を延ばし、転倒予防や姿勢改善を図る健康増進施策でありその目的と背景は、現代人の多くが「浮指」や外反母趾、偏平足など足部の異常を抱えており、これが転倒や姿勢の悪化、膝・腰の痛みなどの原因になっている。また特に高齢者の要介護の原因となる「転倒」は、足の指が地面に接していないことが大きな要因とされており、幼児期から足指を使った正しい姿勢を習得することが重要とされています。主な取り組み内容は、あしゆび体幹体操：足指・足裏・足首周りの筋肉を鍛え、体幹バランスを強化する運動プログラム。モフ草履の活用：地元特産の毛布素材を使った草履を履くことで、自然に足指を使う生活習慣を促進。市民運動としての展開：幼児教育から高齢者の転倒防止まで、幅広い世代に向けた啓発活動を官民連携で推進している。大阪・関西万博での発信：2025年の万博にて、泉大津市の先進的な健康モデルとして全国にむけて紹介された。

目指す未来は、「アビリティタウン構想」の一環として、市民一人ひとりの身体能力や才能を伸ばし、健康で誇りあるまちづくりを目指しているとのこと。また地域にとどまらず、全国の自治体への横展開も視野に入れたモデル事業として位置づけられている。

また「マタニティ応援プロジェクト」は、妊婦の健康を食から支える全国初の取り組みで、妊娠期間中に栄養価の高いお米「金芽米」を毎月 10 kg 無償で提供する施策で、プロジェクトの概要としては、対象者：泉大津市に住む妊婦。提供内容：出産予定期まで毎月 10 kg の「金芽米」を無償提供。目的：妊婦の健康維持と赤ちゃんの健やかな成長を支援。この提供される「金芽米」は、東洋ライス

社の独自技術で精米された、栄養価の高い無洗米。玄米の栄養（ビタミン・ミネラルなど）を残しつつ、消化性に優れたお米。糖質 14%オフで、妊娠中の血糖値管理にも配慮されている。この検証結果としては妊婦の体調不良（便秘・むくみ・冷え性など）の軽減。新生児の出生体重が過去平均より増加。妊婦・家族の健康意識向上、食生活改善のきっかけにもなったとのこと。地域連携と食料確保については、市独自のサプライチェーンを構築し、全国 8 自治体と農業連携。特別栽培米や減農薬米を安定的に調達。都市部から農村部への支援と共存共栄を目指す。妊婦の声としては、「無洗米で手間が減り助かった」「食生活を見直すきっかけになった」「家計が助かり、安心して妊娠生活を送れた」「母乳のために産後も金芽米を購入している」とのこと。食育と地域連携を通じて持続可能な健康支援を実現するモデルケースある。

② 食品リサイクル法の理念に基づき、学校給食の調理くずや食べ残しなどの生ゴミと公園や街路樹の剪定枝チップを混せて堆肥「とよっぴー」を製造。製造された「とよっぴー」は農作物や草花の栽培に利用され地域で好評を得ている。また学習・体験の場としても利用され、環境教育では堆肥製造の過程を見学することで、自然循環や資源の有効活用について学ぶことができる。乳幼児から大人まで対応し子どもも向け社会見学にも適している。

③ 豊中市立児童福祉センターは、子どもと保護者の両方に寄り添った支援を提供している。1. 一人ひとりに合わせた系統的な支援：子どもの発達段階や特性に応じて、個別に支援プログラムを設計。主体性を育む療育を重視し、子どもが自分らしく生きる力を育てる目的としている、2. 多様な通所支援プログラム：親子通所（どれみ・くるみ）、単独通所（あゆみ）、小集団親子教室（カラフル）など、発達段階や家庭の状況に応じた複数の選択肢がある。また放課後等ディサービス（カラフル・h o o p）も併設されており、就学後の支援も継続的に提供されている。3、市の委託による専門的な運営体制：社会福祉法人北摂杉の子会が運営を担い、専門性の高いスタッフによる支援が行われている。また地域に根ざした支援体制で、保護者との連携も密に行われている。4、人権尊重と尊厳の保持：利用児童の人権を尊重し、職員は一人ひとりの尊厳を守る姿勢を徹底している。

- ・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

① 市民のQOL向上を軸に据えた健康増進施策「あしゆびプロジェクト」は、地域特性に応じて柔軟に展開が可能です。このような実証済の取り組みを参考にすることで説得力のある提案が可能になると思う。例えば、高齢者福祉分野では、転倒予防プログラムとして、導入が可能。また、幼児教育分野では、姿勢・体幹教育の一環として利用できる。地域産業連携では、地元資源を活かした健康グッズ開発が可能。官民共働では、行政・企業・大学の連携モデルになりうる。健康政策では、健康寿命延伸の戦略的施策。

マタニティ応援プロジェクトは、本市への応用ポイントとして、妊産婦支援：加工玄米の無償提供による健康支援。食育政策では、金芽米を活用した栄養教育。地方連携では、農業自治体との協定による食料調達。健康政策では、健診データを活用した政策検証。子育て支援では、給食・家庭支援との連動施策。

② 豊中市緑と食品のリサイクルプラザは、地域の環境意識向上と資源循環の実践を両立させる好例である。1. 食品リサイクル法の実践モデルとして学校給食の残さや剪定枝を活用して堆肥「とよっぴー」を製造するプロセスは、食品リサイクル法の理念を具体化した好事例である。本市でも同様の堆肥化施設を導入可能であるように思われる。2. 地域農業・園芸への支援として製造された堆肥は市民農園や学校園芸、地域の花壇整備などに活用されており、都市農業や緑化推進にも貢献している。本市でも「地産地消型堆肥」の導入により、地域農業の活性化が期待できる。廃棄物の減量と堆肥化による資源循環は、焼却コストの削減」にもつながる可能性があり財政面でもメリットがある。

③ 豊中市立児童支援センターからは、子育て支援としての応用可能な要素は、妊娠期から学童期までの切れ目ない支援。相談体制としてはワンストップ型の専門職相談窓口。福祉施設整備としては、多機能型支援拠点の設置。地域連携では、学校区単位の支援展開と居場所づくり。里親支援では、併設型センターによる包括的支援。豊中市のように制度改正を先取りした実践的な支援体制は、本市が児童福祉政策を再設計する際の大変参考になると思われる。このモデル事例を参考にすることで、地域に根ざした説得力ある政策提言が可能になると思う。